

島根半島の歴史文化再発見講演会

11月23日(日)13時30分～16時

会場：古代出雲歴史博物館講義室(定員80名)

(出雲市大社町杵築東99-4 出雲大社東隣)

参加無料

去る神と訪れる神～建御名方神・歳徳神～

講師：金田 久璋(日本地名研究所所長・民俗学者)



金田 久璋氏

異界の入口としての日御碕山塊

講師：岡 宏三(古代出雲歴史博物館 専門学芸員)



岡 宏三氏

資料の準備をいたしますのでFAXまたはEメールで事前に聴講申込をしてください
(予約なし当日参加も可能です)

聴講申込先 ※住所・氏名・電話番号をお知らせください

FAX：0852-21-9942 Eメール：kowata189sky@yc4.so-net.ne.jp

島根半島四十二浦巡り再発見研究会事務局 木幡育夫

問い合わせ先：090-4572-0641(木幡直通)

主催：島根半島四十二浦巡り再発見研究会

後援：島根半島・宍道湖中海(国引き)ジオパーク推進協議会



金田 久璋 (かねだ ひさあき)

1943年、福井県美浜町佐田に生まれる

民俗学者の谷川健一に師事し、民俗学を学ぶ。国立歴史民俗博物館資料調査員・共同研究員、日本国際文化研究センター共同研究員、福井県文化財保護審議会委員、美浜町誌編纂委員会委員長、日本民俗学会評議員などを歴任。放送大学教養課程卒業。敦賀看護大学非常勤講師。

著書に『森の神々と民俗』(白水社)『稲魂と富の起源』(同)『あどうがたり-若狭と越前の民俗世界』(福井新聞社)『ニソの社と若狭の民俗世界』(岩田書院)『若狭あどうがたり集成』(同)

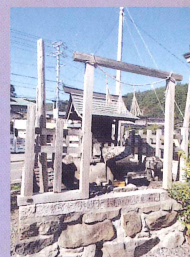
共著に『田の神祭りの歴史と民俗』(吉川弘文館)、詩集、文学評論等多数。

●国譲り神話と来訪神-その神学・美学・実学・詩学について

大和や山城同様、出雲は各種の神話や遺跡、古代史の事績、民俗が豊饒な地方として知られている。昨年の全国知名研究者伊賀大会で伊賀市上拓植にある古代の製鉄遺跡とされる「風の森」について論究し、その祭神の風の神の伊勢津彦が大和政権から諏訪に追われていることから、当地の「国譲り神話」の建御名方神への関心を深めた。本居宣長は同一人物ともしているが、ともあれ、出雲における建御名方神の評価は十全とはいえない。『日本書紀』の崇神天皇六十年に見える出雲国造の祖とされる出雲振根の誅殺も謀反による。建御名方神を「去る神」とすれば、すなわち「来訪神」は「訪れる神」で、古代史と民俗学のテーマでは噛み合わないが、力業で臨みたい。



出雲市斐川町鳥井
タケミナカタを祀る鳥屋神社



タケミナカタを祀る
岡谷市川岸三沢の藤島神社

岡 宏三 (おか こうぞう)

1966年島根県生まれ。

青山学院大学博士後期課程単位取得退学、島根県立博物館学芸員を経て島根県立古代出雲歴史博物館専門学芸員。専門は近世社会文学史。

【編著書・論文等】

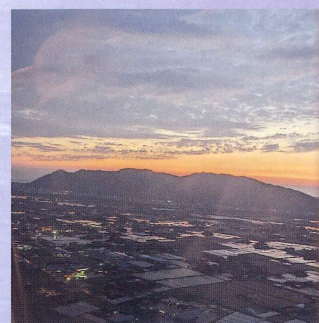
「林子平処罰事件と風聞」(『日蘭学会会誌』第45号)、「松江藩の犬猫改帳」(吉川弘文館『日本歴史』第898号)

『近世日本の海外情報』(岩田書院/共著)、『神楽の中世』(三弥井書店/同)、『歴史と地域のなかの中世』(法蔵館/同)

『洋学史研究事典』(思文閣出版/共編)『出雲國造北嶋家文書』(八木書店/同)ほか

●異界の入口としての日御碕山塊

古代から中世にかけて、島根半島は「元来他地域の一部の土地のかけら」で、「“根の国”に隣接する」境界の地と認識されていた。特に「国引き神話」のなかで新羅の国の余りであったと伝えられる旅伏山以西の日御碕山塊は、新羅を往来し、また根の国の主となったスサオヲゆかりの地とされ、あるいはまた鰐淵寺の縁起に釈迦が『法華経』を説法した天竺の霊鷲山の一部とあることから『法華経』ゆかりの聖地ともとらえられた。日の沈む境界の聖地は、西方極楽浄土、また南方補陀落浄土の入口ともみなされて、多くの求道者、熱烈な信仰者を引き寄せた。そのあたりを当時の文献や説話で解き明かす。



会場 古代出雲歴史博物館講義室

〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東99番地4

最寄駅及びバス停

一畑電車 松江しんじ湖温泉駅から「出雲大社前駅」下車 約60分

「電鉄出雲市駅」からは川跡駅で乗り換えて「出雲大社前駅」下車 約16分

一畑バス 出雲市駅バス停から「出雲大社・日御碕行き」乗車「古代出雲歴史博物館前」下車 約25分

